(C)十勝毎日新聞社

高木 女子3000 初優勝

全国高校スケート アイスホッケー

【釧路・神奈川】第62回全国高校スケート・アイスホッケー選手権大会（全国高体連など主催）のスピードスケートとアイスホッケー競技第2日は24日、釧路市柳町スピードスケート場、釧路アイスアリーナなどで行われ、女子3000㍍は、高木美帆（帯南商3年）が2位に10秒近い差を付ける圧倒的強さで初優勝した。2位に蓑田結依（白樺学園1年）が入った。男子1000㍍は短距離2冠を狙った後藤卓也（帯農3年）が1分15秒81で3位。ワールドカップに参戦中の近藤太郎（駒大苫小牧3年）が優勝した。25日は男子1万㍍を行った。アイスホッケーは白樺学園が釧路江南を7―2で退け8強入り。清水は埼玉栄にGWS（ゲーム・ウイニング・ショット）の末に4―5で惜敗した。フィギュアは男子フリーで玉田佳之（帯工3年）が16位となり、総合で昨季より順位を2つ上げて13位に入った。女子はショートプログラムの最終組のC組が行われ、花本依里香（帯北1年）が30位、藤田真佑（白樺学園2年）が42位。上位24人によるフリーは25日に実施され、A組7位で総合20位の川平咲良（帯三条2年）が出場した。

（北雅貴、金野和彦）

【女子3000㍍】4分27秒00のタイムで優勝した高木美帆

リンク記録届かず 首ひねる 高木

高木美帆は目標としていた田畑真紀（ダイチ）のリンクレコードに1秒72届かずに小首をかしげた。「天候に恵まれた好条件だったが…。課題の残るレース」と淡々と振り返った。

順調な入りだった。1400㍍までのラップは33秒から34秒台前半でまとめたが、持ち味の後半の粘りどころでペースが落ちた。最後は37秒台に。練習拠点の明治北海道十勝オーバルに比べて氷が硬く、「予想以上に滑らない」（東出俊一監督）リンクだったが、「状況に応じないといけないのに」と反省の言葉ばかりが口をついた。

1000㍍で世界ジュニア、1500㍍で日本ジュニア記録を出した充実の昨季に比べ、苦悩のレースが続く。滑りが小さくなっているとの指摘もあるという。「修正して1500㍍では（石野枝里子の持つ）リンクレコードを」と話す。

この2年間は世界ジュニア選手権と重なったため、今回が最初で最後のインターハイ。悲願の学校対抗初優勝のために、最終日26日の1500㍍と2000㍍リレーに全力を傾ける。「団体戦はチームが1つになって楽しい。ワールドカップにはない感じ」と、ようやく笑みがこぼれた。

アイスホッケー

清水2回戦で敗退

埼玉栄にGWSで「来季は勝って泣く」

清水は2―4で迎えた第3ピリオド（P）に、怒濤（どとう）の攻めを見せた。川村一希主将や関和輝、馬渕稜太、石崎湧一ら最上級生の気迫に呼応するように、鈴木大貴と松本昂大の1年生FWもゴールへ激しく向かった。

道大会後に鍛えたパワープレーでDF渡辺健也（3年）が遠めからシュート。関が相手GKのスクリーンとなり、3点目を奪って勢いづいた。3分後には川村主将のゴール裏からのパスを馬渕がGKの右を抜く鮮やかなゴールを決めた。

高橋仙人監督は「3年生はよく頑張った」とたたえた。個人技の高い埼玉栄に、上本晃巧（3年）は何度も体を投げ出してシュートを防いだ。第2Pで3失点し、気持ちが沈みかけたところで多田真希斗（同）が「まだ負けたわけじゃないぞ」と鼓舞した。

GK尾関俊介（2年）は目を真っ赤にし、「先輩たちが同点にしてくれたのに申し訳ない。強い気持ちを見習い、来季は勝って泣けるチームになりたい」と声を振り絞った。

【2回戦・清水―埼玉栄】第3ピリオド17分すぎ、埼玉栄の強烈なシュートを体を張って守る清水の石崎湧一（中央）

【2回戦・白樺学園―釧江南】第1ピリオド18分すぎ、白樺学園のDF蓑島圭悟が中央から2点目のシュートを決め、仲間と喜び合う

白樺学園8強入り

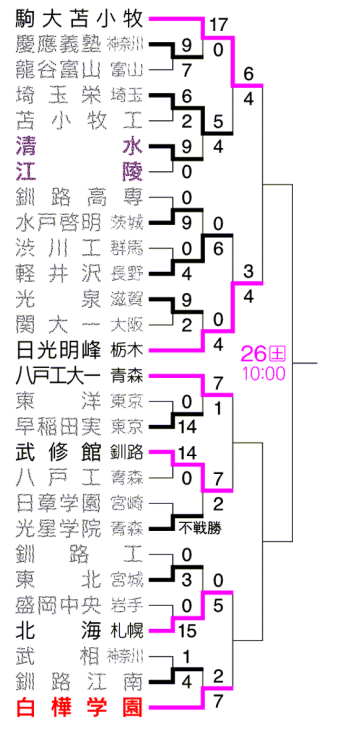
釧路江南に7―2

蓑島ハットの活躍

白樺学園

○…白樺学園のDF蓑島圭悟（1年）が、公式戦初の3ゴールと1アシストを決めた。チームは初戦の硬さに加え、釧路江南は全校応援の完全アウェー。シュートリバウンドをたたき込んだ第1ピリオド終盤のチーム2点目は、仲間を落ち着かせた。湊谷匡晃監督は「パックがつながらず、キープもできない。あれがなければどうなっていたか分からない」と振り返った。

同学年の志賀祥樹と第1セットのディフェンスを組む。前夜は宿舎で就寝前に「パスは速く正確にFWにつなぎ、守備では相手に体を当てる」ことを2人で確認し、冷静なプレーに結び付けた。「得点はたまたま。もう忘れる。守備とパスをきっちりとやりたい」と気を引き締めた。



【男子1000㍍】好スタートを切り、最初のコーナーを回る後藤卓也

後藤（帯農）男子1000 3位

表情はさばさば

後藤

○…前日の男子500㍍に続く頂点を狙った後藤卓也は3位に終わった。「（優勝の）近藤太郎は別格。仕方がない」とさばさばした表情で振り返った。

高校入学時、1000㍍は「それほど強い選手でなかった」（坂東成監督）。同走の中村隼人（駒大苫小牧2年）ら同世代のトップ集団とも3、4秒近い差があったが、こつこつと地道な努力で縮めてきた。

学校対抗のために少しでも上位にと臨んだ今レース。ラスト1周のラップを30秒29にまとめた。2位に食い込めなかったことを少し悔いながらも「最後は頑張れた。表彰台を逃さなかったのは良かった」と話した。

玉田佳（帯工）13位

フィギュア男子

△フィギュア▽（24日）（上位3人と管内関係分）

【男子】

◇フリー＝①日野龍樹（愛知・中京大中京）139・86②川原星（福岡・沖学園）126・72③中村優（大阪・関大北陽）122・90⑯玉田佳之（帯工）72・43

◇総合＝①日野龍樹（愛知・中京大中京）212・09②川原星（福岡・沖学園）191・75③中村優（大阪・関大北陽）183・29⑬玉田佳之（帯工）120・64

【女子】

◇ショートプログラム▽C組＝①友滝佳子（岡山理大付）56・79②佐藤弥桜（東京・日本橋女学館）51・98③庄司理紗（東京・駒場学園）51・31㉚花本依里香（帯北）27・61㊷藤田真佑（白樺学園）21・82

【フィギュア・男子決勝】ダイナミックな演技を披露した玉田佳之（大賀章好撮影）

女子3000㍍2位の蓑田結依

自分でもびっくり

蓑田

○…「6位以内を目標にしていたので自分でもびっくり」と、女子3000㍍で1年生ながら大健闘した蓑田結依ははにかんだ。

スタート直前は「泣きそうになった」ほど、インターハイ独特の雰囲気に極度の緊張を覚えた。それでも滑り始めると自然に集中力が高まった。遠藤倫哉監督に注意された膝の使い方を意識し、前へ進んだ。ラスト1周は、高校での厳しい練習で強くなったという粘りを見せた。「これまで以上にモチベーションを高めてスケートに取り組む」と、来季の優勝を目標に練習に励む。

＜スピード＞（7位以下関係分）（24日）

【男子】

◇1000㍍

日本高校記録	加藤　条治（山形中央）	1分10秒67
大会記録	藤野　裕人（標茶）	1分11秒92
①近藤　太郎（駒大苫小牧）	1分13秒71
②ウィリアムソン師円（山形中央）	1・15・64
③後藤　卓也（帯農）	1・15・81
④池田　崇将（白樺学園）	1・15・82
⑤中村　隼人（駒大苫小牧）	1・16・05
⑥関井　翔太（帯南商）	1・16・20

⑨金野樹（池田）1・16・96⑩中山航（帯三条）1・17・08⑫今野明星（池田）1・17・49⑬久保廉（帯三条）1・17・57⑮渡邊勇人（白樺学園）1・17・96⑲佐藤健（帯南商）1・18・53㉘宇佐見裕太（帯農）1・19・82㉙水野正也（芽室）1・19・96㊱河瀬拓思（帯大谷）1・21・32

【女子】

◇3000㍍

日本高校記録	石野枝里子（白樺学園）	4分9秒26
大会記録	高山　梨沙（駒大苫小牧）	4分19秒24
①高木　美帆（帯南商）	4分27秒00
②蓑田　結依（白樺学園）	4・36・49
③長屋　千夏（駒大苫小牧）	4・36・82
④佐藤　綾乃（釧路北陽）	4・37・88
⑤原田　梨央（白樺学園）	4・38・63
⑥酒井　寧子（帯南商）	4・38・94

⑮嶋宮茉佑子（帯三条）4・51・17⑯木村茉悠（同）4・52・77⑰川上琴子（帯農）4・53・85⑱桑原彩奈（池田）4・53・88

（リンクコンディション＝天候曇り、無風、気温0．0℃、氷温マイナス6．0℃、湿度65%・24日午後3時現在）